

令和2年4月29日

看護職各位

愛知県集中ケア認定看護師会

患者の重症化を早期発見するための呼吸数測定について

新型コロナウイルス感染症の陽性確定者が1万人を超し、全国の医療施設で非常にひっ迫した状態が続いています。

厚生労働省は4月28日、新型コロナウイルス感染症の軽症者が宿泊施設や自宅で療養する際、注意すべき緊急性の高い症状を公表しました。これは、自宅待機中の患者2名の病状が悪化し、亡くなられたことが背景としてありますが、軽症入院患者の重症化も同様に深刻な問題です。

緊急性の高い症状の中には、「息が荒くなった（呼吸数が多くなった）」があります。呼吸数は、今回のパンデミック以前から、急変を予測する指標として有用であることが知られていましたが、愛知県集中ケア認定看護師会が、愛知県内の5施設の一般病棟を対象に行った多施設研究では、呼吸数が測定されていた患者はわずか36%であり、施設によってはほとんど測定されていませんでした。

一般病棟や外来等、軽症の新型コロナウイルス感染症患者の看護にあたっている看護職の皆様には、**必ず呼吸数を測定**し、患者の重症化の早期発見に努めて下さいますようお願いいたします。

患者に一番近い存在として、自らの感染の危険性と隣り合わせで患者の安全を守っている全国の看護職のみなさまに敬意と感謝を表しつつ、ここに提言いたします。くれぐれも体調管理にご留意の上、職務を全うして下さることを願ってやみません。

参考文献

- 1) Schein RM. Clinical antecedents to in-hospital cardiopulmonary arrest. Chest. 1990 Dec;98(6):1388-92.
- 2) 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症の軽症者等に係る宿泊療養・自宅療養における健康観察における留意点について <https://www.mhlw.go.jp/content/000625758.pdf> 2020/04/29 accessed.
- 3) 石井房世, 川嶋恵子, 鈴木伴枝, 西尾陽子, 西嵯政仁, 畑迫伸幸, 本荘弥生, 三浦敦子, 南山奈緒子, 村松恵多, 池松裕子. 多施設における呼吸数測定の現状と分析. 第47回日本集中治療医学会学術集会. 2020